

# 特集 学生の研究活動報告—国内学会大会・国際会議参加記 27

## ASEAN グローバルプログラム に参加して

中野 智 矢  
Tomoya NAKANO  
機械システム工学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムのハノイ、シンガポールにおいて約10日間のASEAN グローバルプログラムに参加した。具体的な研修日程を表1に示す。

表1 研修日程

8月29日	ベトナム入国, オリエンテーション
8月30日	企業訪問, 交流会
8月31日	ベトナム人学生との PBL
9月1日	ベトナム人学生との PBL, ビジネスパーソン交流会
9月2日	観光
9月3日	シンガポール入国, 観光
9月4日	NTU キャンパスプログラム
9月5日	講演会, ビジネスパーソン交流会
9月6日	シンガポール出国
9月7日	帰国

### 2. 参加目的

日本にいと“日本寄り”の考え方になり、物事を一方から見るだけになると考え、実際に海外の人たちのいろいろな考え方に触れ、新しい視点を見つけることを目的の1つとした。また、日本ではできて海外ではできないこと、逆に海外ではできて日本ではできないことを知るのも今回のプログラムに参加した目的の1つである。

### 3. 研修内容

#### 3.1 Rikkei Soft と NTQ の見学

ベトナムの IT 企業である Rikkei Soft と NTQ の

見学で、まず気づいたことは、ひとりひとつ机があるのではなくて、7~8人で大きな机を囲んで仕事をされていることでした。また、ヘッドホンをつけて仕事をしている人もいて、自分が仕事をしやすい環境で仕事ができるようになっていたと感じた。これは、自分が持っていた職場のイメージと大きく異なっていて、とても刺激的だった。

#### 3.2 ベトナム人学生との PBL

ベトナム人学生との PBL では、1グループに本学の学生5人と2人のハノイ工業大学の学生を交えて、まだベトナムに進出していない“UNIQLOの商品を売る”というテーマに対して解決法を考えた。どのように工夫すれば売れるのかをアンケート等で調査し、それをまとめて発表した。ベトナム人学生と英語でディスカッションするときに、相手がいっていることを理解する英語力、自分が伝えたいことを伝える英語力が、自分が想像していたよりも乏しく、もどかしく悔しい思いをした。もっと英語ができれば、よりコミュニケーションがとれたと感じた。また、ベトナム人の考え方と日本人の考え方の違い、授業に対する積極性の違いを実感することができた。今回のベトナム人学生との PBL は、自分の英語に対する意識、授業に対する意識について考えさせられるとてもよい機会になったと感じた。

#### 3.3 NTU キャンパスプログラム

NTU キャンパスプログラムでは、アジア大学ランキング1位である南洋理工大学 (NTU) を訪問した。まず、大学に入って最初に“大学っぽくない”と感じた。おしゃれな飲食店が多くあり、日用品や電化製品を売っている店もあったので、大学の中にショッピングモールがあるような印象を受けた。大学の中で生活することができると感じた。講義の体験では、NTU の学生は、自分のパソコンで授業の資料を見ながら受けている人が結構いると感じた。自分の大学では、そういう人はほとんど見ないので、参考になった。また、MECHANICAL

AND AEROSPACE ENGINEERING の研究室を訪問して、3D プリンターで作られたソーラー電気自動車や航空のレーダー管制と飛行機のパイロットを連動させることができる研究、天気や時間等、様々な条件に変えてタワー管制が疑似体験できる施設というような、普通の大学では、考えられないようなものが数多くあり、とても刺激的だった。普段では、決して見たり聞いたりすることができないことを多く体験できた。自分は、AEROSPACE ENGINEERING に興味があったので、今回の NTU キャンパスプログラムを通じて、その分野についてより知りたかったと思った。4時間ほどの短い時間であったが、とても良い経験ができた。

#### 3.4 シンガポールでの講演会・交流会

シンガポールでの講演会・交流会では、現地で起業されている築野さんの講演会、“若者よ、アジアのウミガメとなれ”の著者である加藤さんの講演会、現地のビジネスパーソンの日本人の方々、寺嶋さん、芝崎さん、大野さん、との交流会に参加した。築野さんの講演では、なぜシンガポールで働こうと思ったのか、また、いまの会社を起業するに至ったのか等の話を聞いた。ビジネスパーソンの方々との交流会は、比較的自分の年代と近い方々だったので、そのような方々と交流できたのは、とても刺激的だった。そして、自分に足りないもの、大学生の間に何をすべきか考えさせられた。また、芝崎さんに様々な人種がオフィスにいるシンガポールでの、日本との仕事のスタイルの違い、日本人と外国人の考え方の違い、文化の違いについて教えて頂いた。加藤さんの講演では、インプットしたことをどんどんアウトプットしていくことが重要だというこ

とを教えて頂いた。そうすることで自分の周りの環境も変化していくので、これからはどんどんアウトプットしていかなければならないと思った。このシンガポールでの講演会・交流会は、自分のこれからの大学生活や将来について深く考えるよい機会となった。また、将来についてのアドバイス等も頂きとても貴重な時間となった。

#### 4. おわりに

今回のプログラムを通して、日本には経験できないことをたくさん経験させて頂いた。自分を見つめなおすよい機会となり、これからの自分がどのようになりたいか、またそうなるためには何をすべきか等、いろいろな課題を発見することができた。

また、海外の人たちと実際に英語でコミュニケーションを取って、自分の英語力では、まだまだコミュニケーションを取ることができないと感じたとともに、もっと英語を話せるようになって、海外の人たちともっともっとコミュニケーションを取れるようになりたいという英語に対する向上心が強くなった。そして、海外の人たちとたくさんコミュニケーションを取り、日本とは異なる海外のいろいろな考え方を理解し、グローバルな考えを持つひとになりたいと思った。

今回の ASEAN グローバルプログラムを通して得られた、たくさん経験は間違いなく今後の自分に自信となり、そしていろいろな場面で生きてくると思っております。このようなたくさん貴重な経験をさせてくださったこのプログラムに関わった皆さまに心よりお礼申し上げます。